

新聞の船舶情報に見る 1865年のワイルド・ローヴァー号

八木谷 涼 子

近年、19世紀の英字新聞のデジタル化が進んできている。ボストンを母港とするワイルド・ローヴァー号 (1,130t、以下 WR 号) について、(1) 新島襄ボストン港到着までの記録と (2) ボストン出港に関する記録が、船舶情報の記事検索¹⁾により明らかになったので報告する。

(1) WR 号ボストン入港までの記録

新島は「航海日記」(以下、日記)において、ボストンに落碇した日を1865年7月20日と書いている(『新島襄全集』⁵⁾、p.67。以下出典同じ)。その通りの7月20日(木)、ボストン入港の記事が見つかった。いち早く帰港を伝えたのは、当日付の夕刊紙 *Daily Evening Traveller* (*Boston Traveler*) である。図1に示したのがその記事だが、左側がかすれていて判読が難しい。



図1 *Daily Evening Traveller* (20 Jul 1865, p.3)

これを補う記事を21日付の *Boston Post* (図2)に見つけたので、転写してみる。なお、船名に続く固有名詞は船長の姓を示す。

Thursday, July 20.

ARRIVED.

Ship Wild Rover (of Boston). Taylor, Manila April 10th.
 Passed Anjier April 25. Spoke May 30, lat 34 25 S, lon 24 40
 E. ship Resolute, McGilvery, 65 days from Shanghae for N
 York (and spoke her again June 17, lat 20 53 S, lon 2 25 W);
 July 19, lat 41 12, lon 68 30, brig Scotland, McLellan, from
 Boston for Cardenas.

図2 *Boston Post* (21 Jul 1865, p.3)

Ship Wild Rover (of Boston), Taylor, Manila April 10th.
 Passed Anjier April 25. Spoke May 30, lat 34 25 S, lon 24 40
 E, ship Resolute, McGilvery, 65 days from Shanghae for N
 York (and spoke her again June 17, lat 20 53 S, lon 2 25 W);
 July 19, lat 41 12, lon 68 30, brig Scotland, McLellan, from
 Boston for Cardenas.

船長が航海日誌を元に提供した情報のように思われるが、これを新島の日記および「箱船よりの略記」(以下、略記)と照合してみよう。記事によるとマニラ出港は4月10日。この日は月曜日で、新島の記述と合致する(p.60, 77)。4月25日のアンジャー³⁾(Anjier, スンダ海峡)通過も合致する(p.62, 77)。そして5月30日に南緯34度25分、東経24度40分の地点でレゾリュート(Resolute)という船と交信したとある。Google マップの検索窓に「34°25'S 24°40'E」と入力してみると、南アフリカ沖に飛んだ。「今朝ケープの卓山を見得たり」と新島が記したこの日(日記、p.63)、船は確かにケープタウンの近くにいたのだ。喜望峰通過は翌31日だった(略記、p.77)。

ここで英国船レゾリュート号(634t、以下レゾ号)の消息も見ておこう⁴⁾。3月26日に上海を出港したこの船は、4月23日もしくは28日にアンジャーを通過した。2度の交信をしつつ、WR号を追うかたちで、7月26日にニューヨークに入港する。したがって、「65 days from...」とあるのはレゾ号のことである。喜望峰は6月2日に通過。新島はWR号の赤道通過を6月29日としているが(p.65, 78)、レゾ号は7月1日だった。

WR 号はもう 1 艘、ボストン帰港前日の 19 日にナンタケット島沖でスコットランド (Scotland) という英国のブリッグ船 (299t) と交信している。新島は同日に「或る漁船」に遭ったと記しており (略記、p.78)、これがその船だと思われる。スコットランド号は 7 月 13 日にボストンを離れ、キューバに向かう途上にあった。

(2) 新島がテイラー船長と別れた 10 月 11 日の WR 号ボストン出港記録

10 月 12 日付の新聞 (図 3) により、テイラー船長の WR 号が 11 日午後のアラバマ州モービル Mobile に向けて発っていたことがわかった。11 日の午前には新島は「小蒸気船に乗移りボストンに上陸せし、即時船頭 H・S・テーロルと手を別てり」(日記、p.68、図 4)。新島が下船したのは、船が出港するためだったのである。前日に同船が「ストリームを得たり」とあるのは、航海の予定が決まったという意味ではないだろうか。モービルに着いた WR 号はさらにニューオーリンズ、そしてリヴァプールに向かい、ボストン帰港は翌年 5 月だった。

当時、東アジアの船舶情報が北米東海岸の新聞に反映されるまで、2 か月以上かかっている。情報はもっぱら「船便」で伝達されたためだろう。いちど海上に出ると船同士で消息を確認しあっていたことは、「交信 (Spoken)」記録の存在によく現れている。



図 3 *Daily Evening Traveller* (12 Oct 1865, p.4)
(★印は引用者による)

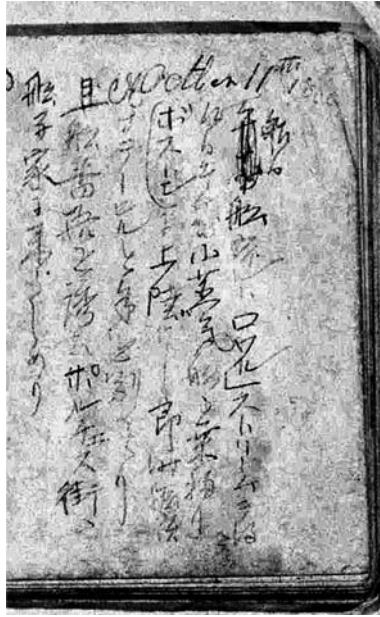


図4 1865年10月11日付航海日記
同志社大学同志社社史資料センター蔵
(画像番号 10660031)

注

- 1) アメリカの新聞検索はおもに GenealogyBank と NewspaperArchive を利用した。船のトン数は1864年の *North-China Herald* [Shanghai, China]、および *Lloyd's Register 1864* による。
- 2) 新島襄全集編集委員会編『新島襄全集』5、同朋舎出版、1984年
- 3) 新島は航海日記においてアンジャーを「Anjer」と綴っているが、当時の新聞上の綴りは「Anjier」が一般的だった。
- 4) *Philadelphia Inquirer* [PA], 30 Jun 1865, p.7、および *Portland Daily Press* [ME], 29 Jul 1865, p.3 による。